

原告団

遺族・CO裁
判、災害責任
追求、特集号
第二十四号

日記の証言

思い出しもどくとする、昭和
三十八年十一月九日。三川鉦第一

斜坑において起きた、炭じん爆
発。

あれから満五年の歳月が流れた
というのに、俺の記憶力はだめだ
ある。何事もすぐに忘れてしまっ
て、頭に残すことができない。

身体の方も右半身と手足がマヒ
して、思うようにならぬ。
ひと口に五年というが、俺たち
ガスにやられた者にとっては苦し
く長い年月であった。どんなに長
い年月でも病状が良くなってい
くのならばガマンもできるが、病状
は少しも良くなっているはず。

現 状

CO患者・桑原さんの

俺の場合、今日という日が何日
で、何曜日というのすらわから
ない。俺一人のことではないの
だ。しかしこのような病状の俺た
ちを医者は「病状固定」という名

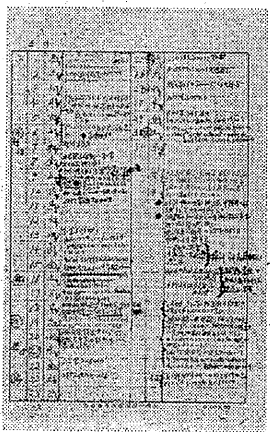
知的機能の低下

優れた活動家だった彼にこのラク印

今日——は何日ですか？



写真上は、昔読みあさった本をなつかし
くながめる桑原さん。下はカレンダーに
忘れないためにギツシリと記入。



闘い抜かねばならぬ。闘う以外に
道はないのだ。

右の一文は、CO患者桑原さん
が、あの三川鉦炭じん大爆発か
ら五年めの昭和四十三年十二月二
十四日の日記に、自からペンを取
って書いたもので、彼はなおその
日の日記につきのようにも書きし
めている。

「今朝は、八時三十分頃床より
でる。頭重く、痛し。ムカッキ有
り、気分悪し。胃の調子も悪くて
ならぬ」

生きざこま

桑原さんは、経過観察中のC

〇患者。いま、万田機能回復指導
所(大牟田労災療養所が管理)
でのリハビリテーションに参加。
一日も早く……と、機能回復につ
とめている。

機能回復訓練といっても、ほと
んどゲートボール遊びぐらい。
彼は昭和四十一年十月十五日生れ
だから、今年五十二才。だがいく
らでっぴりして、見る目に
は返ってとより若く見え見え
る。この人がCO患者だと聞いて
も、知らぬ人には信じられないに
違いないが、ゲートボール遊びさ
えままにならぬ後遺症が爪を打ち
かけていて難さず、彼の苦しみ悩
みは果てしない。

「人間の常で、私も、一人でも
よいから仕事がつりたかった
ですが、それともうどうだにな
りました」

彼はまた「私も男ですから……」
と何気なさそうに呟く。うのだ
が、その非情な言葉の裏にまぎま
ざと見えるのは、自分が、自分と妻
とが身一つに歩いていた人生を、

五男に倒れていたところを、昏睡
状態のまま救出され、ついに病院
暮らし(三井本院・万田分院・大
牟田労災療養所)の身となったと
き、寛さんの方は四十一才で、サ
ダエさんの方はまだ三十八才だっ
た。それなのに、寛さんは語るの
である。

「かという、腹かいて、せつ々
と夕飯をならべたばかりの飯台
を、前後の見さかぬひまひく
りかえしたこともたびたび
です。何に腹が立ったのか、私は
ともかく本人さえわからないので
すから。」

被災前は、人一倍きちやうめん
で勉強家で、本と新聞なしには生
きられない、という人でしたの
に。CO中毒症は、恐ろしいです
ね。

「これらは本は、私の行くところ
には、どこさんでん、坑底の現
場さんでん、つれたっていったも
んばかりです」——という、いい
だしてきた本はといえば、社会主
義、新憲法の基本理念、労働問
題、憲法、社会主義教科書、社会
思想辞典、日本の労働運動、日本
の政治経済労働分析、などなど……

三池の闘いをささる、優れた
職場活動家でもあった彼。職場分
会、地域分會、そのほか。
ある年のある月の日記に、つ
ぎのような一節を見出すことさ
えできる。

「一九五一年九月八日、ダレス
長官と吉田首相とのあいだで、ひ
そかにつくりあげられた対日平和
条約、および日米安保条約は、サ
ンフランシスコで調印された。
これとほとんど同時に、八月十
六日比相互防衛条約が成立。九
月一日には、米、豪、ニュージー
ランドの太平洋安全保障条約が調
印されたことを、見逃すことがで
きない。
ダレスは対日平和条約を、和解
のうのか。」

え、子どもはなし。いっせ逃げ
帰った……というのですか。そ
れは考えませんでした。私が側に
いてやなくて、だれがこんな
なつてしまった主人のめんどろを
見てくれるでしょうか。それに主
人として、何も自分が好きでこ
んな人間になつてしまったもので
もなく、こんな主人にしてしま
った三井鉦山にそれらしい責任を
と



下の写真はサダエさんの勤務先

性格変化

桑原さんは、昭和十四年六月
二十三日入社の坑内運搬夫。妻の
サダエさんのいう通り、性来無類
の勉強家だった。

「これらは本は、私の行くところ
には、どこさんでん、坑底の現
場さんでん、つれたっていったも
んばかりです」——という、いい
だしてきた本はといえば、社会主
義、新憲法の基本理念、労働問
題、憲法、社会主義教科書、社会
思想辞典、日本の労働運動、日本
の政治経済労働分析、などなど……

三池の闘いをささる、優れた
職場活動家でもあった彼。職場分
会、地域分會、そのほか。
ある年のある月の日記に、つ
ぎのような一節を見出すことさ
えできる。

「一九五一年九月八日、ダレス
長官と吉田首相とのあいだで、ひ
そかにつくりあげられた対日平和
条約、および日米安保条約は、サ
ンフランシスコで調印された。
これとほとんど同時に、八月十
六日比相互防衛条約が成立。九
月一日には、米、豪、ニュージー
ランドの太平洋安全保障条約が調
印されたことを、見逃すことがで
きない。
ダレスは対日平和条約を、和解
のうのか。」

妻は語る

サダエさんはいま、大牟田市三
川町五丁目にある某婦人服装店に
検査係として働きながら、ずたず
たにされた二人の生活をささえて
いるが、人並みで生きろとした
表情で語るのである。

「主人が、一人での道歩きがで
きないのが困ります。私が通勤に
乗る自乗車がこわれたとき、主人
はバイクで現に三・四回ほども
私を勤務先のお店まで送ってくれ
ましたのに、全然記憶してないの
ですから。」

「い先のこと、用事があり
まして、主人を私の家につれて
いったことがございました。そし
て用事をすまいよいよ帰ろうと

会社側「証言」を粉碎

三川鉦鉦長室 沖・勝永両証人立つ
事件15回公判

九日午後一時から、三川鉦鉦長
室事件第十五回公判が福岡地方裁
判所で開廷。この日は三川指導部
十一分會(CO患者分會)の勝永
未人さんと、この事件をデッチあ
げられて被告にされている当の沖

と信頼の条約であると自認し、こ
れによって日本は独立を回復でき
るといったが……、実はアメリカ
軍の占領から駐留への名義替えに
よる実質的な対日支配の裏づけで
あり、それはそのままが国の反
動化と軍国主義復活をめざす道で
あったのである」